

Windows NT 3.5

いよいよ日本上陸

見逃せない、ネットワーク機能の充実ぶり

Daytona のコードネームで知られる Windows NT 3.5 がいよいよ日本に登場する。正式な発売日などは、12月8日の Windows Solution Tokyo の会場で発表される予定である。本誌ではこれに先駆け、Windows NT 3.5 トライアルプログラムとして、最終評価用の版を読者の皆さんに提供する。このトライアルプログラムは、版であることと利用期限が限定されていることを除けば、制限は一切加えられていない。このCD1枚で、十分に Windows NT 3.5 の魅力を体験することができる。このトライアル版を編集部で一足先に使ってみた。

Windows NT 3.5 はどこが凄いのか

Windows の動向をずっと見続けてきている人にとっては今更ではあるが、改めて Windows NT 3.5 が Windows 3.1 や Windows NT 3.1 とどう違うのか、要点だけをピックアップしてみよう。

メモリが少なくても快適に動く

じつは、Daytona の最も凄い点はここにある。どんな高機能な OS でも、今までの

環境より遅くなつては魅力は半減してしまふ。旧バージョンの NT 3.1 では、この点で一部のハイエンドユーザー以外は躊躇していたはずだ。しかし、Daytona は違う。i486/33MHz でメモリが16M バイトもあれば、十分に快適に動作する(ちなみに、編集部内では14.6M バイトの PC-9801FA (i486/16MHz) でもなんとか実用になるスピードで動いた)。

Mosaic が動く



注) 原因は不明だが、Ver 2.0 6以降のMosaicはトライアル版のWindows NT 3.5では動作しない。5以前のものなら動作するようだ。ちなみに画面は 2。

TCP/IP を含めたネットワークに完全対応の OS である

本誌読者の皆さんにとって最も魅力的なのがこの点だろう。Windows 3.1 は確かに使いやすい OS だが、ネットワーク環境がなく、インターネットに接続するためには他のソフトを購入する必要があった。Windows NT 3.5 では、ネットワーク機能を内蔵しているうえに、標準的なプロトコルとして TCP/IP を採用している。さらに、今回のバージョンアップでは、TCP/IP 関連のドライバが強化されて高速になっている。Windows Socket も標準で用意されているため、Mosaic をはじめ多くの WinSock 対応アプリケーションがそのまま動作する。もちろん、Win32s は不要だ。

PPP ベースの RAS に対応

Windows NT 3.5 では、一般回線を使ったりリモートアクセスサービス(以下 RAS)のプロトコルに、PPP (Point to Point Protocol) を利用している。このため、RAS の機能を NT ネットワークへのリモートアクセスだけでなく、インターネットへのリモートアクセスとしても利用できる。実際、Windows NT 3.5 の PPP を使って、編集部から IJ へのリモートアクセスをしてみた。

RAS を使うには、コントロールパネルのネットワークから「リモートアクセスサービス」を追加する。設定は思ったより簡単で、モデムなども自動的に判別してくれる。ユーザーが指定するのは、電話番号とユーザ

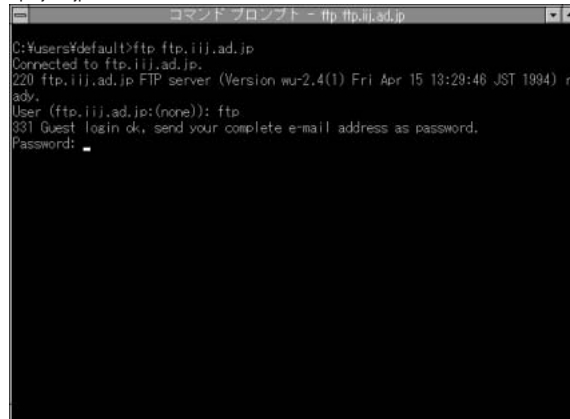


PPPによるリモートアクセス

telnetでNEMACSを使ってみた



ftp.iij.ad.jpへアクセスしているところ



一名やパスワードだけである。しかも、PPPを中止すると自動的にPPPからネットワークカードを使ったIP接続に切り替わった。こうした、ユーザーにバックエンドを意識させない作りはうれしい。

注) ただし、モデムの初期化等の設定が必要なようである。今回はターミナルで初期化してからRASを実行した。MODEM.INFファイルを編集するとこの作業は不要になるようだ。

FTPやTELNETなど代表的なインターネットツールが標準添付

FTPクライアントやTELNETクライアント、そしてFTPサーバの機能が標準で提供される。TELNETは、GUIベースで日本語も利用できる(ただし、漢字が正常に入力できないなど一部の機能はトライアル版では利用できない)。FTPは、コマンドプロンプトから利用するタイプのものである。とはいえ、コマンドプロンプトはウィンドウの状態ので使えるので、特にGUIベースである必要は感じない。

FTPサーバは、単独のアプリケーション

としてではなくWindows NTのサービスの1つとして機能するため、設定はコントロールパネルから行うようになっている。匿名FTPもサポートしている。

Windows NT 3.5の先進的機能 DHCPとWINS

Windows NT 3.5では、TCP/IPベースのネットワーク管理をより簡潔に行うために、DHCPとWINSという機能を用意している。特に、DHCPはモバイルコンピューティングなどのIPのアドレス割り当ての方法として注目されるものでもある。

DHCPは、簡単に言うとDHCPサーバにIPアドレスをプールしておき、必要となったら、クライアントに貸し出すような仕組みである。クライアントは起動時に、DHCPサーバに問い合わせしてIPアドレスを借りる。DHCPサーバはどのクライアントに何というIPアドレスを貸し出したか覚えておき、時間が立てば回収する。こうすれば、クライアント側は個々にIPアドレスを

設定する必要がない。また、BOOTPなどに比べて、動的にIPアドレスを決めるため、IPアドレスの有効利用ができる。

一方、動的にIPアドレスが決まると、名前からIPアドレスを動的に解決する方法も必要になる。これが、WINSである。WINSサーバは、ネットワークを監視し、どの名前とどのIPアドレスが対になるかを自動的に管理する。もちろん、DHCPで割り当てられたIPアドレスも記憶する。WINSサーバに名前で問い合わせれば、最新のデータベースからIPアドレスを探して返してくれるのだ。

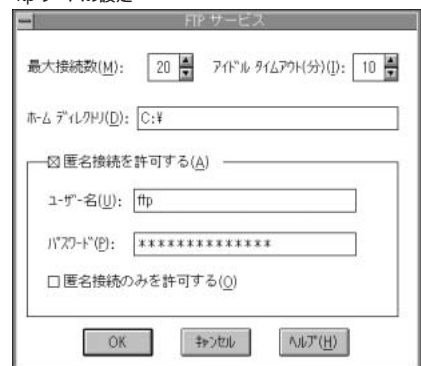
ただし、今回提供するWindows NT Workstation 3.5のトライアル版では、DHCPクライアントとWINSクライアントにはなれるが、サーバにはなれない。サーバは、Windows NT Server 3.5に含まれる

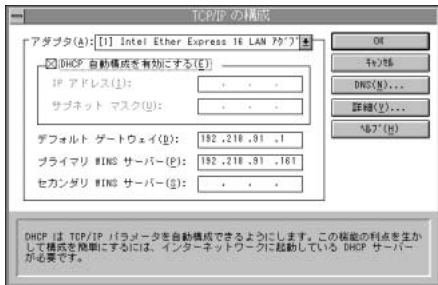
コントロールパネルのftpサーバ設定



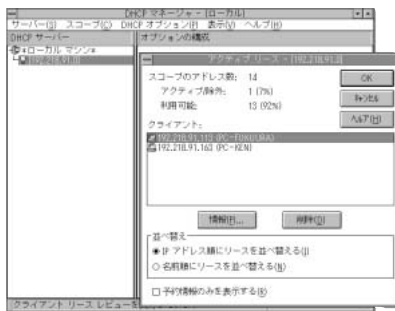
FTPサーバの設定はコントロールパネルの「FTPサーバ」アイコンと「ネットワーク」アイコンで行う。「FTPサーバ」アイコンでは、現在接続しているユーザーが表示される。また「ネットワーク」アイコンからは右図のような匿名FTPなどの設定を行う。

ftpサーバの設定





DHCPクライアントの設定は、コントロールパネルの「ネットワーク」アイコンで行う、IPアドレスはDHCPで設定せずに、静的に割り当てることもできる。



Windows NT Server 3.5で提供されるDHCPサーバは、とびとびのIPアドレスもプールすることができる。このため、空きIPアドレスを有効に利用できる。

いち早く利用できる。Windows 95との互換性も保たれるわけだ。

Schedule+ が日本語版になる

Windows NT 3.1では、日本語化されなかったSchedule+ がきちんと日本語化されている。Schedule+ は、ネットワーク対応のスケジューラで、データを共有することで、個人的なスケジュール管理だけでなく会議室の予約などでもできる。

まとめ

インターネットに対応していて、Windows アプリケーションが動くと、Windows NT 3.5はよいことづくめだが、いくつか問題になることもある。

それは、プリンタドライバやディスプレイドライバ、ファクスマodemドライバなどのドライバ類がWindows 3.1のものを利用できないのだ。このため、標準からはずれたハードウェア構成の場合は、少し苦勞するだろう。とはいえ、数多くのハードウェアのドライバが標準で添付されているため、特にPC/AT 互換機ユーザーの場合は困ることは少ないだろう。

こうした問題のないユーザーでインターネットに興味があるのならば、Windows NT 3.5は絶対にお勧めのOSである。じつは私のマシンもすでにWindows NT 3.5に移行している。

ので、残念ながらこの機能を使うことはできない。製品版を待ってほしい。

あたりまえだけどうれしい新機能

インターネット関係を中心に新機能を紹介したが、これ以外にもちょっと並べただけで改善された機能が次のように多数ある。

OpenGL API が使える

3D モデリングの標準APIといえるOpenGLがサポートされた。今後、UNIX ワークステーション上で開発されているCADや3Dツールが利用できるようになるだろう。

OLE 2.0に対応した

Windows 3.1ではアプリケーションが提供するDLLで実現されたOLE 2.0に完全対応した。OLE 2.0は、16ビットサブシステムで独立に動くアプリケーション間でも有効で、Windows 3.1との違いを感じさせない。

Video for Windows Ver. 1.1に対応

多くのマルチメディア機能が標準で提供される。もちろん、Video for Windowsも最新版が提供される。

NetWare クライアント機能が標準で添付される

Windows NT 3.1では、ついに最後まで版しが配布されなかったNetWareのクライアント機能が標準で提供される。日本語化されており、日本語ファイル名も問題なく利用できる。

Windows 95と同じFATでの長いファイル名が扱えるようになった

来年に出荷予定のWindows 95で採用されるFATファイルシステムのままで8+3文字以上のファイル名が利用できる仕掛けが

WINSサーバのデータベース



WINSサーバのデータベースは動的に変更される。現在のデータベースをWindows NT ServerのWINS マネージャで確認できる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp